

2019年度研究成果公開促進費（学術講演会等） 成果報告書

【報告者所属・氏名】

文学部 美学美術史学科 教授 椎原伸博

【タイトル】

ワインは芸術や文化に何をもたらしてきたのか

【講演者所属・氏名】

実践女子大学文学部	教授	椎原伸博	(基調講演)
北海道教育大学岩見沢校芸術スポーツ文化学科	教授	柴田尚	(パネル発表)
東京家政大学家政学部	准教授	曾根博美	(パネル発表)
首都大学東京 都市環境学部	准教授	鳥海基樹	(パネル発表)
東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科	准教授	住友文彦	(ディスカッサント)
千葉大学 教育学部	准教授	神野真吾	(ディスカッサント)

【開催日時・場所・来場者数】

日時：2019年 10月26日(土) 14時～17時 50分

場所：実践女子大学渋谷キャンパス 804教室

来場者数： 30名

【学術的な成果】

本シンポジウムは、「現代アートにおける創造的行為としての「食」の研究」(科研費基盤研究B 18H00638 2018-)の研究の一環として行われた。基調講演では、美学的な見地から「創造」という言葉の意味を再確認し、その上で、柴田、曾根、鳥海のパネル発表が行われた。柴田は、北海道空知地区におけるワインを媒介とする、現代アート活動の報告をした。曾根は、イタリアのワイナリーが現代アーティストに依頼してエチケットを作成し、それをオークションにかけることで、美術館の支援につながる報告をした。鳥海は、ワインスケープという新しい概念を提示することで、景観形成にはたすワインの役割を報告した。それぞれの報告は、新しい芸術的価値の創造のみならず、文化政策やアートマネジメント等の視点からも、新しい知見を含むものであった。また、2人のディスカッサントを加えた、パネルディスカッションの討議は、学術的価値の高いものであった。

【広報面での成果】

今回のシンポジウムでは、チラシを作成し、主要な研究機関、美術館での告知に努める一方、SNSを活用した広報を行った。しかし、思ったよりも集客することが出来なかった。とはいえ、SNS等での反応は高いものがあり、より戦略的な広報の必要性を実感した。

【今後の課題・展開】

今回のシンポジウムの成果は高いものであり、現在報告書を作成している。報告書は、科研の中間報告と学術講演会の成果を連動させるよう編集している。報告書は、主要研究機関に送付する共に、PDFファイルでダウンロード出来るようにして、広く研究成果を公開していく予定である。